

インテル(INTC)

自動運転と画像処理半導体モバイルAI、垂直統合モデルから転換のファウンドリ事業が成長への鍵
 ナスダック | 半導体素子 | 業績フォロー

BLOOMBERG INTC:US | REUTERS INTC.OQ

- 2022/12 期 4Q(10-12 月)業績は、売上高が前年同期比 31.6%減、調整後粗利益率が同 12.0 ポイント低下、調整後 EPS が同 91%減と振るわず。
- パソコン市場の低迷、データセンター向けの減速が重し。データセンター向けは顧客の支出減に加え、競合他社にシェアを奪われたことが響いた。
- 先進運転支援システム(ADAS)と画像処理半導体のモバイルAI、および垂直統合モデルから協業モデルへ転換のファウンドリ事業が成長へ鍵を握ろう。

What is the news?

1/26 発表の 2022/12 期 4Q(10-12 月)は、売上高が前年同期比 31.6%減の 140.42 億 USD、非 GAAP の調整後粗利益率が同 12.0 ポイント低下の 43.8%、調整後 EPS(1株当たり純利益)が同 91%減の 0.10USD。自動運転のモバイルAIは堅調に推移も、主力のパソコン市場の低迷やデータセンター向けの減速が重しとなった。データセンター向けでは顧客企業の支出減に加え、競合のアドバンスト・マイクロ・デバイゼス(AMD)に市場シェアを奪われたことも響いた。

4Q主要セグメント別業績は以下の通り。①クライアント・コンピューティング部門は、売上高が前年同期比36%減の66.25億USD、営業利益が同82%減の3.71億USD。②データセンター・AI部門は、売上高が同33%減の43.04億USD、営業利益が同84%減の3.71億USD。③ネットワーク・エッジ部門は、売上高が同1%減の20.61億USD、営業利益が同84%減の58百万USD。④加速コンピューティングシステム・画像部門は、売上高が同1%増の2.47億USD、営業利益が前年同期▲6.41億USDから▲4.41億USDへ赤字幅縮小。⑤ファウンドリ・サービスは、売上高が同30%増の3.19億USD、営業利益が前年同期3百万USDから▲31百万USDへ赤字転落。⑥モバイルAIは、売上高が同59%増の5.65億USD、営業利益が同71%増の2.10億USD。

How do we view this?

2023/12期1Q(1-3月)会社計画は、売上高が前年同期比▲43-▲37%の105-115億USD、調整後粗利益率が同14.1ポイント低下の39.0%、調整後EPSが前期の0.87USDから▲0.15USDへ赤字転落。今後の同社への投資視点としては、モバイルAIとファウンドリ・サービスの2点が注目される。

モバイルAIは会社目標として最新プラットフォーム「SuperVision」を中心に2022年度設計分のADAS(先進運転支援システム)に係る受注残からの売上高を2030年までに22年度売上の約3年半分と見込んでいる。AI活用画像処理半導体チップ「EyeQシリーズ」が成長の原動力となろう。

ファウンドリ・サービスでは、米国で半導体製造の補助金として500億ドルを支給する「CHIPS法」の本格実施を迎えるなか、同社は従来の自社設計・製造を一貫して行う垂直統合モデルから、広くデバイスのパートナーを募って「チップレット」(プロセッサの構成要素をそれぞれ個別のチップにして1つの基盤に搭載する設計)と呼ばれる技術を採用する協業モデルへ大きく転換する方針。株価本格反騰への鍵を握ろう。

業績推移

※参考レート 1USD=131.57円

事業年度	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12F	2024/12F
売上高(百万USD)	77,867	79,024	63,054	50,604	58,769
当期利益(百万USD)	20,899	19,868	8,014	-2,827	4,182
EPS(USD)	4.94	4.86	1.94	-0.48	1.18
PER(倍)	5.91	6.00	15.04	-	24.69
BPS(USD)	19.95	23.44	24.52	24.26	25.09
PBR(倍)	1.46	1.25	1.19	1.20	1.16
配当(USD)	1.32	1.39	1.46	1.22	0.98
配当利回り(%)	4.52	4.76	5.00	4.18	3.34

(出所: 会社公表資料をもとにフィリップ証券作成、F=予想はBloomberg)

配当予想(USD) **1.22** (予想はBloomberg)
 終値(USD) **29.18** 2023/3/27

会社概要

1968年に設立した世界最大の半導体メーカー。マイクロプロセッサ、チップセット、SoC(システム・オン・チップ)などのプラットフォームを中心に設計・製造する。

同社の主要事業は以下の6部門である。

①クライアント・コンピューティング部門(CCG)は、ノートPCやデスクトップPC、タブレットなどの端末向けのプラットフォームを提供する。

②データセンターおよびAI(人工知能)部門(DCAI)は、インテルXeonサーバーやFPGA(フィールド・プログラマブル・ゲートアレイ)製品など主要なデータセンター製品の開発に注力するとともに会社全体のAI(人工知能)戦略を推進する。

③ネットワークおよびエッジ部門(NEX)は、クライアント側のインテリジェント・エッジに至るまでのネットワーク全体を動かすテクノロジーと製品に関連する。

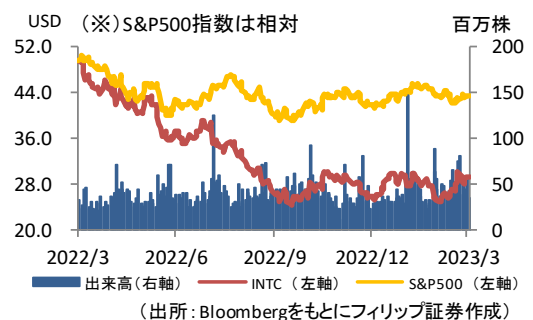
④加速コンピューティングシステムおよび画像部門(AXG)は、顧客・企業・データセンターを跨いだ高性能コンピューティング(HPC)およびグラフィックソリューションに関わる。

⑤インテル・ファウンドリ・サービス(IFS)は、業界を主導する種類およびテストキャパシティを擁し、幅広い製造サービスで独自の製品ニーズに応える統合的かつスタンドアロンな半導体ファウンドリ(受託生産)である。

⑥モバイルAIは、先進運転支援システム(ADAS)および自動運転ソリューションで業界リーダー。22年10月にナスダック市場に新規上場。インテルは種類株の保有を通じて支配株主の地位を保持している。

企業データ(2023/3/28)

ベータ値	0.98
時価総額(百万USD)	120,718
企業価値=EV(百万USD)	130,791
3か月平均売買代金(百万USD)	1,258.6



主要株主(2023/3)

1.VANGUARD GROUP	8.87
2.ブラックロック	8.09
3.ステート・ストリート	4.30

(出所: Bloombergをもとにフィリップ証券作成)

リサーチ部

笹木 和弘
 kazuhiko.sasaki@phillip.co
 +81 3 3666 6980

【レポートにおける免責・注意事項】

本レポートの発行元: フィリップ証券株式会社 〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町4番2号

TEL:03-3666-2101 URL: <http://www.phillip.co.jp/>

本レポートの作成者: 公益社団法人 日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト 笹木和弘

当資料は、情報提供を目的としており、金融商品に係る売買を勧誘するものではありません。フィリップ証券は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得る場合があります。当資料に記載されている内容は投資判断の参考として筆者の見解をお伝えするもので、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、当資料の一部または全てを利用することにより生じたいかなる損失・損害についても責任を負いません。当資料の一切の権利はフィリップ証券株式会社に帰属しており、無断で複製、転送、転載を禁じます。

<日本証券業協会自主規制規則「アナリスト・レポートの取扱い等に関する規則 平14.1.25」に基づく告知事項>

・本レポートの作成者であるアナリストと対象会社との間に重大な利益相反関係はありません。